

1月20日 逍遙 

今ワタシが居るここ照國神社から、国道を挟んで向こう側に見えるのが中央公園。すぐ近くに住むワタシにとっては、国道を跨ぐ歩道橋を渡ればすぐの、手頃な距離の散策コースですが、逍遙館長さんの話では、この一帯には、江戸時代中期の第8代薩摩藩主・島津重豪が創建した藩校「造士館」と、武道場の「演武館」があったのだそう（今、その面影はありませんが）。

そしてそこには、「幕末・明治維新时期に、薩摩藩があれだけの重要な役割を果たし得たのは何故か？」を考えるときの、大きな要因の一つが見えてくるのだそうです。それは、「薩摩の教育システム」。

薩摩藩の武士達は、藩校「造士館」の公教育と「郷中教育」と呼ぶ地域教育によって、朱子学やその影響を受けた武士道、知行合一（知識と行動の一致）を唱える陽明学、尊皇思想に結びつく国学等を学び、新たな国家像に向けて自ら行動する志や、公のために身を捧げるという倫理・道德規範を身につけたのだとか。これって、今で言うと、「教育」？ それとも「人材育成」？

次回「共に学び合い・成長する、のこころ」

教育？ それとも 人材育成？

のこころ

